

カリキュラム

機構施設名： 静岡職業能力開発促進センター

実施機関名： (株)日本コンサルタントグループ

25-22-12-093-047

A. バックオフィス		093IT新技術による業務改善
	新技術活用	

コースのねらい	第4次産業革命下における新技術を含めたITを活用し、作業の自動化や共有能力の拡充等により新たな業務の合理化・迅速化が図られていることを理解し、自社業務に適切な新技術を選定する知識を習得する。
---------	---

講義内容	「基本項目」		「主な内容」	訓練時間 (H)	日 程	
					月 日	時刻
	1	■ 新技術の概要	(1)なぜ今DXが必要とされているのか DXが必要とされている理由を日本の社会情勢(少子高齢化社会の加速)、世界の社会情勢(生産性の向上)等から紐解く。DX白書や経産省のレポートを紹介しつつ、日本企業の状況を客観的に把握する。 【演習】日本企業の課題、自社の課題 (2)企業のDX推進動向と調べ方 技術が浸透する一般的な展開を説明し、先進的な取り組みを行っている企業事例を紹介する。 DX化の本質は新技術の活用ではなく、自社に必要なIT技術を使ってビジネスを変革していくことであると認識する。 【演習】なぜDXは企業の成長に必要なのか検討 (3)先進技術を用いたビジネスの変革事例 各業界の最新技術を用いた未来予想を経産省のレポートを用いて共有し、自社の所属する業界がどのように進んでいくのかを予測する。AI技術の浸透がもたらす可能性を検討する。 【演習】社会に求められ続ける企業であるためにビジネスをどのように変革すべきか(変革のテーマを検討)	3.0	令和8年 1月22日(木)	9:30～16:30 昼休憩 11:45～12:45
2	■ 新技術の導入事例	(1)量子力学を用いた量子コンピューターとは 量子力学の概念を紹介する。一般的な物理学を超えた概念であるため、しばしばスピリチュアル系と混同されるが、その類似性も踏まえて理解し、それがコンピューターにどのように応用されるのか、それができるとどのような革新性がもたらされるのかを考える。 【演習】身の回りの量子力学検討 【演習】量子コンピューターがもたらす近未来を検討 (2)ITリテラシーの醸成 IT技術を使いこなすにあたって、サイバーセキュリティ対策は必要不可欠となる。サイバー攻撃は日常的なものになっており、問題が発生するのはどのような場合なのかを、事例紹介により共有する。そのうえで自社に必要な準備や心構えを検討する。 【演習】自社でIT活用するにあたっての問題と対策	3.0			
合計時間				6時間		

カリキュラム作成のポイント
(カリキュラム(作成例)を参考にして、実施機関によりご記入ください) 最新のDXの動向や導入事例を具体的に紹介する。紹介にあたってはオープンコースであることを踏まえ、初歩的な情報から、先進的な情報まで、様々なツールを共有する。例えば、AI、RPA、ビッグデータ、クラウド、など。 講義が一方通行にならないように、Q&Aによる問いかけや、演習によるグループ討議を大目に取り入れる。他社の具体的な状況を確認することで、それぞれの知見を深めるとともに、刺激を与えあうことで、今後のDX推進、業務改善の機運を高める。グループ演習においては、講師からも気づきを伝えることで、より客観性を増すようにする。 DXはビジネスを変革するための手段であることを理解していただく。ビジネスの変革は、企業が社会に必要とされるための必要要件であることを理解していただく。本質を踏まえて議論することで、素朴でも深い議論になるよう、演習を管理する。

